

(様式1・小学校用①)

令和4年度 学 校 評 価 報 告

草加市立長栄小学校
(令和5年2月22日作成)

1 学校教育目標	
○学校教育目標	よく考える子・思いやりのある子・たくましい子
○目指す学校像	笑顔あふれる長栄小
○学校経営方針	児童一人ひとりを大切にし、学びに向かう力・豊かな心・たくましく生きる力を育む学校
2 重点目標・努力目標	3 前年度の成果と課題
「新田中学校区の目指す15歳の姿」の育成 育成すべき資質・能力 ○思考・熟考（探究心） ○協同・協働（共生心） ○自立（自律心）	成果 ○感染防止対策と環境整備を積極的に進め、安全・安心な教育活動の充実に努めることができた。 課題 ●幼保小中を一貫した教育のさらなる推進を図るため、幼保・小・中・保護者・地域との連携を一層深める。

4 評価表 ※評価基準【A：十分達成している B：おおむね達成している C：やや不十分である D：不十分である】				
領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
I 学校運営に関するもの	①組織運営	・学校経営目標、方針 ・校務分掌組織 ・適所への適材配置 ・職員会議等の運営 ・予算の執行・決算、監査等	B	○全教職員が学校経営方針を理解し、教育活動の充実に努めることができた。 ●校務分掌組織を見直し、適材適所の人材配置を行う。
	②研究・研修	・研究組織、計画、実施 ・校内研修の推進 ・授業改善への取組 ・校外研修会への参加 ・人材育成	A	○校内研修を組織的・計画的に進めることができ、授業の質的改善が図られた。 ○研究発表会の開催に向け、幼保小中が連携して研究を進めることができた。 ●2年間の委嘱研究の成果を、次年度以降の指導に生かしていく。
	③保健管理・安全管理	・保健計画、安全計画 ・環境衛生の管理 ・健康観察、安全点検 ・緊急事態発生時の対応 ・危機管理マニュアルの作成・活用	B	○感染状況に応じて、家庭と連携しながら感染防止対策を行うことができた。 ●登下校の仕方や自転車の乗り方についての安全指導を徹底する必要がある。
	④情報管理・施設設備管理	・個人情報の管理、保護 ・施設設備の管理と有効利用	B	○個人情報に関する校内ルールを徹底し、適切な管理をすることができた。 ●備品の管理を徹底し、計画的な修繕・購入に努める。
	⑤地域との連携 開かれた学校	・学校情報の発信 ・学校公開の実施 ・学校運営協議会の推進 ・地域、校種間連携 ・PTA活動の活性化	B	○感染防止対策を講じながら、学校公開や教育講演会等を行うことができた。 ●学校のホームページをさらに充実させ、家庭・地域へ情報を発信していく。
	⑥幼保小中を一貫した教育	・目指す子ども像の共有 ・15年間を通じたカリキュラムの編成 ・一貫教育推進のための組織づくり	A	○幼保小中・幼保小・小中連絡協議会を計画的に開催し、相互理解を深め、一貫した教育を推進することができた。 ●15年間を通じたカリキュラムの編成をさらに進めていく必要がある。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
II 教育活動に関するもの	①教育目標・教育計画	<ul style="list-style-type: none"> 15年間を通じたカリキュラムの編成、実施 教育計画の作成 教育活動の評価 目標、方針の周知 授業時数の配当、確保 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○「目指す子ども像」や「育成すべき資質・能力」について共通理解を図り、教育活動を推進した。 ●学校行事の開催時期や開催方法について見直しを行う。
	②教科指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 主体的・対話的で深い学びの視点に立った授業改善 評価、評定の工夫 外部人材の活用 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業づくりについて研究・実践した。 ●児童の実態に応じて学力向上プランを見直し、授業改善に生かしていく。
	③道徳教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の作成 各教科との関連 道徳的実践力の育成 家庭、地域社会との連携 いのちの教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を通して、「考え、議論する道徳」の授業づくりを推進することができた。 ●家庭や地域と連携した道徳教育をさらに推進していく。
	④外国語・外国語活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導方法の工夫と改善 評価、評定の工夫 各教科、道徳教育との関連 中学校との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○中学校教員やALTと連携を図り、きめ細やかな指導を行うことができた。 ●児童が外国語にさらに親しむことができるよう、指導方法を工夫・改善していく。
	⑤特別活動	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 学級活動、学級経営 学校行事 児童会活動 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○コロナ禍においても、感染状況に応じて工夫しながら学校行事を実施することができた。 ●児童の主体性を大切にし、学級活動や児童会活動を通して自主性を育てていく。
	⑥「総合的な学習の時間」の指導	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画の立案 指導内容の充実 指導方法の工夫と改善 評価の工夫 地域の人材・物的資源の活用 	A	<ul style="list-style-type: none"> ○教科横断的な指導計画を立案し、実践した。 ○外部人材を積極的に活用して授業を展開した。 ●2年間の研究の成果を次年度に引き継ぐとともに、指導方法のさらなる工夫・改善を行う。
	⑦生徒指導	<ul style="list-style-type: none"> 組織的な生徒指導 問題行動への対処 教育相談、児童理解 いじめ防止対策 保護者、地域、諸機関との連携 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○生徒指導委員会等を通して共通理解を図り、諸機関とも連携し、組織的な対応ができた。 ●あいさつや廊下歩行等、児童が基本的な生活習慣を身に付けられるよう支援していく。
	⑧キャリア教育	<ul style="list-style-type: none"> 計画の立案 指導内容の充実 中学校との連携 啓発的経験の充実 家庭、地域との連携強化 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○キャリアパスポートの取組を計画的に進めることができた。 ●各学年のキャリア教育の内容を充実させるとともに、系統的な指導を行っていく。
	⑨特別支援教育	<ul style="list-style-type: none"> 個別の指導計画、支援計画 指導方法の工夫と改善 通常学級との交流 諸機関との連携 校内支援体制の整備 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○個別の指導計画・支援計画のもと、校内で情報を共有し、支援の充実を図ることができた。 ●校内研修をさらに充実させ、特別支援教育についての理解を深める。
	⑩学校図書館教育	<ul style="list-style-type: none"> 指導計画、支援計画の作成 図書館補助員の活用 諸機関との連携 図書館の整備 図書館利用の工夫 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○ボランティアによる読み聞かせを実施し、児童が本に親しむ機会を増やすことができた。 ●読書活動推進プラン等の取組を通して、図書館教育のさらなる充実を目指す。
	⑪情報教育	<ul style="list-style-type: none"> 教育計画の作成 校内研修の充実 ICT機器の積極的な活用 情報モラル教育の推進 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○タブレット端末をはじめ、授業の中でICT機器を積極的に活用することができた。 ●タブレット使用のルールを整理し、児童が適切に情報機器を使用できるようにする。
	⑫人権教育	<ul style="list-style-type: none"> 全体計画の策定 各教科との関連 人権感覚の育成 校内研修の充実 	B	<ul style="list-style-type: none"> ○校内研修を充実させ、人権教育の在り方について共通理解を図ることができた。 ●人権感覚育成プログラムをさらに活用し、児童の人権感覚育成に努める。

領域	評価項目	評価の観点	評価	成果と課題 ○成果 ●課題
Ⅲ 特色 ある 学校 づくり	「新田中学校区の目指す15歳の姿」の育成	・目指す15歳の姿の実現に向けた幼保小中の交流・連携の充実	A	○幼保小中で連携し、各連絡協議会において協議を重ね、研究を推進していくことができた。 ○目指す15歳の姿の実現に向け、育成すべき資質・能力（探究心・共生心・自律心）を育むための授業改善を進めることができた。
	「特別の教科 道徳」	・「長栄小の道徳」を活用した授業の充実	B	○校内研修を通して、「長栄小の道徳」について共通理解を図り、「考え、議論する道徳」の授業づくりを推進することができた。 ●家庭や地域と連携した道徳教育をさらに推進していく。
	安心・安全・美しさを 実感できる学校	・子どもが主体的に考えて行動できる安全教育の充実 ・黙働清掃の励行と学校環境の美化活動	B	○児童が主体的に考えて行動するための指導・支援について共通理解を図り、安全教育の充実を図ることができた。 ○小中合同花植え等を実施し、環境美化活動を推進することができた。 ●登下校の仕方や自転車の乗り方について、安全教育を充実させる。

5 総合評価（学校関係者評価を含む）

- 全教職員が学校経営方針を理解して教育活動にあたり、児童一人ひとりを大切にし、学びに向かう力・豊かな心・たくましく生きる力を育むために、指導方法の工夫・改善を行うことができた。
- 新田中学校区の幼保小中で連携を深め、研究発表会を開催し、2年間の委嘱研究の成果を発表することができた。
- 総合的な学習の時間の年間指導計画を見直し、教科横断的な学習や、外部人材を活用した授業づくりを推進することができた。

6 次年度の改善策

- 児童の実態に即して学力向上プランを見直すとともに、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善をさらに推進していく。
- 感染防止対策や、学校行事の開催方法等について改めて検討し、児童が充実した学校生活を送ることができるよう工夫・改善していく。
- 登下校の仕方や自転車の乗り方等について、児童が自分で考えて行動することができるよう、安全教育をさらに充実させていく。